

美術科 学習指導案

題材名		ピクトグラム 世界をつなぐカタチの言語 「美術Ⅰ」	
題材の目標 (題材で育成する資質・能力)		① 発想や構想したことを基に、創造的に表す知識・技能を身につける。 (ア) 材料や用具の特性を生かすこと (イ) 創造的に表すこと ② 目的や役割などを考えて発想し、構想する力を身につける。 (ア) 主題の生成 (イ) 創造的な表現の構想 (イ) 目的や役割などを考えたデザインに関する鑑賞 ③ 学習に主体的に取り組む態度や生涯にわたって美術を愛好する心情、豊かな感性などを養う。	
具体的な評価規準			
知識・技能		思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
発想や構想をしたことを基に、自分の表現を具体化するために、意図に応じて材料や用具の特性を生かし、表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すことができている。		目的や条件、美しさなどを考えて主題を生成し、それらを基に役割や効果、表現形式の特性などについて考え、創造的な表現の構想を練ることができている。加えて、作者の意図と創造的な表現の工夫についても考え、見方や感じ方を深めている。	主体的に知識・技能を身に付けたり、思考・判断・表現をしようと、生徒間での相互学習に励んだり、相互の作品を鑑賞しあい、発問・批評するなど、創造活動に意欲的に取り組もうとしている。(自身が掴み取ったことを的確かつ冷静に文章化・言語化しようとしている。)
題材計画			
次	時	評価規準と評価方法	学習活動
一	1 2	【評価規準】 研究を通して掴み取った知識を造形的視点に立って文章化できている。(知識、思考) 【評価方法】 行動・記述の観察、点検・確認・分析	① ピクトグラムの外見的特徴やその目的・役割、発祥に関する歴史や変遷について研究するとともに、本題材の技能の主となるレリーフ(彫刻)に関する技巧・種類についても、タブレットや教科書・専門書を利用して研究し、スケッチブックにまとめる。
二	3 4	【評価規準】 得た知識や働かせた思考を基に本題材を理解した発想ができている。(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度) 【評価方法】 行動・記述の観察、点検・確認	② 前時で培った知識や思考した内容を基に、客観的な視点に立ち、目的・条件などを十分に考慮しながら、評価の観点について教師と生徒が協議し、funding criteria を作成する。 ③ スケッチブックにピクトグラムのアイデアを描く。(言語化ならびに造形化する)
三	5 6	【評価規準】 造形的な美しさだけでなく、目的や機能などを考えた視点から、感じ方や見方を深め、発言・批評できている。(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度) 【評価方法】 行動の観察	④ グループ内でスケッチブックの交換、協議を行うとともに、他者の作品に対する批評ならびに他者から得た批評を各自スケッチブックに記録する。意見交換を基に気づいたこと、感じ取ったことを基に、案を修正・改善する。(スケッチブックを用いてプレゼンテーションシートの発想・構想に進む)

四	7 8 9 10	<p>【評価規準】 画像編集ソフトの特性を理解し、形や文字の大きさ、色、構図について思考しながら、全体的な見え方にも工夫を凝らしている。(知識・技能)</p> <p>【評価方法】 行動の観察、点検</p>	⑤ 手描き特有の歪みや複雑さを均整のとれた形に変換するため、画像編集ソフトを用いてデジタル化する。形の正確さと直感的な操作、応答の速さを利用して、「伝えたいことが理解されやすいプレゼンテーションシート」を作成する。
五	11 12	<p>【評価規準】 目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などについて考え、見方や感じ方を深めながら、発問・批評できている。(思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>【評価方法】 行動の観察</p>	⑥ プレゼンテーションシートを基に、発想・構想・ねらい等に関する制作案の発表を行う。発表を通して、聴く側は感じたことや気づいたこと、批評などをルーブリックに基づいたポイントに換算し、発表者に提出する。(本時)
六	13 14 15 22	<p>【評価規準】 他者の意見や批評を受けて、自らの作品のよさについて再考(変更・改善)し、意図に応じて、彫刻刀やサンドペーパーの特性を生かしながら、表現方法を創意工夫し、目的や計画を基に創造的に表すことができている。(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>【評価方法】 制作の観察、行動の確認</p>	<p>⑦ 制作案発表時のフィードバックを基に作品の図案に変更・改善が必要かどうか再考する。</p> <p>⑧ 作品の完成図が印刷された紙を白彫板に転写し、部分ごとの彫りの深さを表面に記入(色分け)する。</p> <p>⑨ 彫刻刀(切り出し刀)を用いて、彫刻する箇所に沿って白彫板の表面に切り込みを入れる。</p> <p>⑩ 作品の遠近感、立体感を損なわないために浅く彫るべき箇所から彫り始め、徐々に深い箇所の彫刻へと移りながら、作品のレリーフ化を進める。</p> <p>⑪ 作品の表面を滑らかにする。(紙鏝No.100~400)</p>
七	23 24	<p>【評価規準】 目的や役割などを考え、明度の差を創り出す色の選択ができている。目的や役割に応じて絵具や筆の特性を生かし、創造的に表している(知識・技能)</p> <p>具体的な評価基準に準拠・言及したレポートを作成できている。(思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>【評価方法】 作品の分析、記述の分析</p>	<p>⑫ 明度の差と作品のイメージを考えて、作品を2色で着色する。アクリル絵具の特性や筆の特性を生かして、着色する。</p> <p>⑬ 制作をふりかえり、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の3つの項目に言及したレポートを作成する。</p>
八	25 26	<p>【評価規準】 客観的な視点に立ち、目的や条件などに応じて、美しさや調和、機能や役割、伝える人や使う人の気持ちや行為、公共性や社会性などについて言及できている。(知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度)</p> <p>【評価方法】 行動の分析</p>	⑭ レポートと作品を基に完成作品発表会を行う。発表者は、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の3つの項目に言及しながら、自らの作品の目的や機能面におけるよさ、造形的な美しさならびに心情、意図などについて発表する。聴く側はデザインにおける考え方や見方を深めながら、批評する。